

米国 果実とナッツ類の生産見通し(主要果実抜粋)

米国農務省経済調査局 2025年3月27日

この報告書では、米国の計量単位が使用されています。メートル法の単位への換算率は次のとおりです。

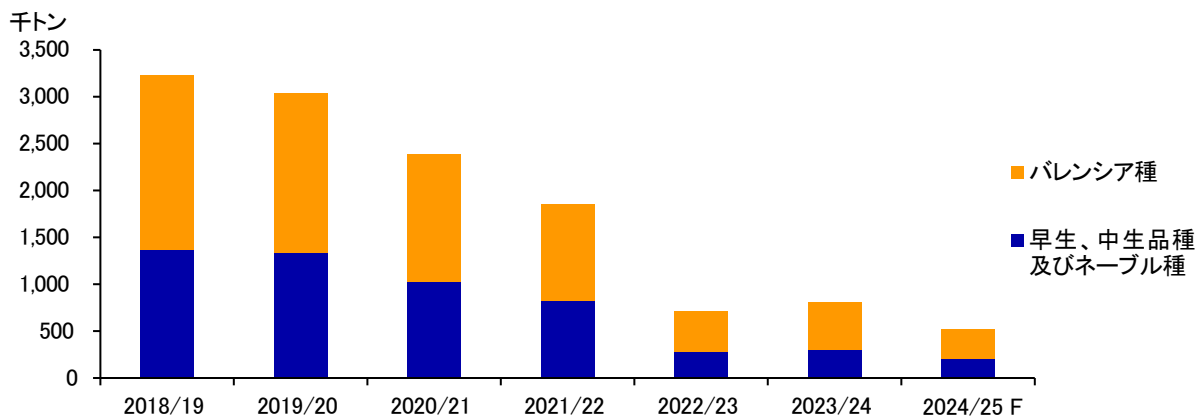
1ポンド＝約453.6グラム(1億ポンド＝約4万5千トン)、1トン(1米トン、ショートトン)＝約907kg(1万米トン＝約9千トン)、

1エーカー＝約0.405ヘクタール、1ガロン＝3.785リットル(1億ガロン＝約38万キロリットル)

フロリダ州の2024/25年度のオレンジ予測出荷量は減少

2024/25年度のフロリダ州の全オレンジの最新(2025年3月)の予測出荷量は52万2千トンで、2023/24年度の最終総出荷量80万8千トンに比べ35%少ない。もしこのとおりになれば、2024/25年度のフロリダ州のオレンジ出荷量は、この95年間で最少となる。米国農務省農業統計局(NASS)の作物生産報告書によると、フロリダ州の早生・中生品種及びネーブル種のオレンジの出荷量とバレンシア種のオレンジの出荷量は、2023/24年度と比較してそれぞれ32%及び38%減少すると予測されている。2024年10月にハリケーン「ミルトン」がフロリダ半島の柑橘類主要産地を襲った。この嵐は数百万ドルの損害をもたらし、既に壊滅的な植物病害である「黄龍病(HLB)」(カンキツグリーニング病)に悩まされていたフロリダ州の柑橘類産業にさらなる打撃を与えた。フロリダ州の柑橘類産業の著しい弱体化にもかかわらず、フロリダ州産オレンジは米国のオレンジ果汁業界で引き続き主要な役割を果たしており、2023/24年度シーズンに米国内の果汁製造に使用されたオレンジの49%を占めた。

フロリダ州のオレンジ出荷量：2024/25年度はハリケーンミルトンとカンキツグリーニング病により減少



F = 予測

注：フロリダ州のオレンジの販売年度は10月に始まり、翌年の9月に終わる。

出典：米国農務省農業統計局(NASS)の「作物生産報告書」(2025年3月)のデータに基づき同省経済調査局が作成

柑橘類の見通し

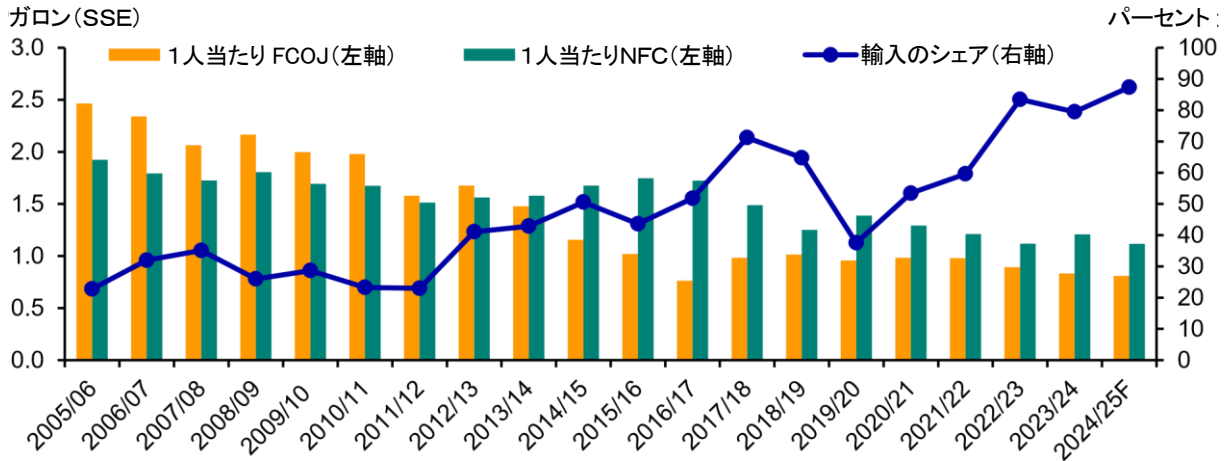
米国の柑橘類消費量に占める輸入の割合が拡大

2024/25年度の1人当たりの生鮮柑橘類供給量は、26ポンドを超えると予想されている。実現すれば、この数値は過去5年間で最高となり、10年平均を7%上回る。米国で消費される全生鮮柑橘類に占める輸入のシェアは拡大している。20年前には生鮮柑橘類の国内供給量に占める輸入のシェア(輸入量を国内供給量で割ったもの)は約20%であったが、2024/25年度には40%を超えると予想されている。カリフォルニア州は産地として非常に大きな役割を果たしており、ライムを除くすべての主要な柑橘類の生産で全米をリードしている。

柑橘類の果汁(特にオレンジ果汁及びグレープフルーツ果汁)の消費量は、10年前に比べて大幅に減少した。オレンジ果汁とグレープフルーツ果汁の消費量は2005/06年度以降57%減少し、2024/25年度には1人当たりの年間供給量が生果汁換算(SSE)で2ガロンに減少すると予想されている。従来、米国で消費用に入手できるオレンジ果汁はほとんどが冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)であったが、2013/14年度に非濃縮(NFC)果汁の市場シェアがFCOJを上回った。米国内のオレンジ果汁の製造量が減少するにつれ、消費

者は一層輸入品に頼るようになった。今シーズン(2024/25年度)のオレンジ果汁供給量に占める輸入品のシェアは90%近くに達し、ブラジルとメキシコが引き続き米国のオレンジ果汁輸入の95%を供給すると予想されている(図5)。

図5 1人当たりのオレンジ果汁供給量は減少し、輸入の占めるシェアが増加



F=予測; SSE=天然果汁換算; FCOJ=冷凍濃縮オレンジ果汁; NFC=非濃縮果汁

出典: 米国農務省農業統計局のデータ、商務省センサス局の貿易データ及びフロリダ州政府柑橘局の出荷データに基づき農務省経済調査局が作成

2024/25年度のオレンジ生産量は減少の予測: オレンジは品種によって、果実の風味、サイズと色、果汁の含有量、種子の有無、成熟期が異なる。米国農務省農業統計局は市場データを追跡するため、オレンジを、1) 通常は種子があり、果汁の生産に優れているバレンシア種のオレンジと、2) バレンシア種以外のオレンジ(ネーブル種を含む)の2つの主要なカテゴリーに区分している。非バレンシアオレンジには、シーズンの早い時期に成熟し、生鮮市場で広く消費される品種が含まれている。出荷シーズンは州によって異なるが、全米のオレンジ販売年度は前年の11月に始まり、当年の10月までである。

2024/25年度の米国産オレンジの予測総出荷量は、昨シーズンに比べて12%減の242万トンと推定されている。カリフォルニア州の非バレンシアオレンジの出荷量は2%増の156万トンと予測される一方、バレンシア種は19%減の30万トンと予想されている。フロリダ州のバレンシアオレンジの出荷量は昨シーズン(2023/24年度)に比べて38%減の31万5千トン、非バレンシアオレンジの出荷量は32%減の20万7千トンと予測されている。テキサス州のオレンジ出荷量は22%減の3万9千トンと予測されている。米国のオレンジ生産量の純減は主にフロリダ州での減少によるもので、2004/05年度以降、ほとんどの年で生産量が前年比で減少している。また、カリフォルニア州産バレンシアオレンジの出荷量も前年より7万2千トン少ないと予想され、これが米国の生産量の純減にさらに拍車をかけている。

オレンジの価格と貿易の見通し: 2024年9月から2025年1月の期間の生鮮オレンジの樹上換算生産者価格は1箱当たり平均23.60ドルで、昨シーズンより約4%高かった。今シーズンのフロリダ州の生産量が歴史的に少ないことから、生鮮オレンジの価格上昇は国内供給の逼迫を反映している。フロリダ州の加工用オレンジの生産量の減少により、加工用オレンジの価格が上昇している。加工用オレンジの樹上換算生産者価格は1箱当たり平均11.48ドルに達し、前年比で74%上昇した。

生鮮オレンジの輸入量は、シーズン序盤(2024年11月～2025年1月)に前年同期比で6%減少したが、これは主にメキシコからの輸入が減少した(19%減)ためである。チリ、ドミニカ共和国、モロッコからの輸入の増加が、この減少の一部を埋め合わせた。生鮮オレンジの輸出量は、前年同期比で1%減少した。

オレンジ果汁の市況: ハリケーンミルトンは、過去8年間で3回目のフロリダ州の柑橘類産業に大きな損失をもたらした熱帯低気圧である。ミルトンによる被害は、フロリダ州の柑橘類産業がカンキツかいよう病やさらに壊滅的な植物病害であるカンキツグリーニング病に苦しめられ、20年間衰退してきた末に発生した。歴史的

に、フロリダ州は米国のオレンジ果汁生産を支配しており、フロリダ州産のオレンジは、比較的最近の2016/17年度には国内のオレンジ果汁生産の約90%を占めていた。今シーズンのオレンジ果汁の製造量は、1億830万SSEガロンと予測されており、これは昨シーズンに比べて22%少なく、少なくとも1970/71年度以来の最低となる。期首在庫は1億6,600万SSEガロンで、1991/92年度以来の最低であり、期末在庫は53年ぶりの低水準に達すると予想されている。国内の供給量の減少により、今シーズンのオレンジ果汁価格は上昇を続けている。

2024年10月から2025年1月の期間に、米国のオレンジ果汁輸入量は前年比で5%増加し、過去40年間の最高水準の1つ(5億7,700万SSEガロン)に近づくとも予測されている。ブラジル、メキシコ、コスタリカが、米国が輸入するオレンジ果汁のほぼすべてを供給している。米国のオレンジ果汁の輸出量は、今シーズンこれまで(2024年10月～2025年1月)に29%増加し、カナダ、メキシコ、コスタリカへの輸出量が増加した。ただし、2024/25年度のフロリダ州産オレンジの収穫量が減少することから、この傾向は今後数カ月で収束すると予想される。米国のオレンジ果汁製造業者は、毎シーズンの販売のかなりのシェアを国外の消費者に依存しており、2014/15年度から2023/24年度の期間の米国のオレンジ果汁の輸出量が国内製造量に占める割合は9～28%の範囲であった。カナダは何十年にもわたって米国のオレンジ果汁の最大の輸出先であり、今シーズン(2024/25年度)も既に最初の4カ月間の米国の果汁輸出の68%を占めている。そのほかの米国のオレンジ果汁の重要な輸出市場は、日本とコスタリカである。

グレープフルーツの見通し: 米国のグレープフルーツの販売年度は9月に始まり、翌年8月に終わる。一時期、グレープフルーツは米国の消費者に2番目(オレンジに次ぐ)に人気のある果実であった。1975/76年度シーズンの生鮮市場向けの年間出荷量は130万トンを超え、1人当たりの供給量は9ポンドを超えていた。今シーズン(2024/25年度)の生鮮消費と加工用を合わせた出荷量は29万9千トンと予測されており、これは1922年以来の最低水準である。2024/25年度シーズンのお荷量は、カリフォルニア州が14万8千トン(前年度比14%減)、フロリダ州が5万1千トン(同33%減)、テキサス州が10万トン(同4%増)と予測されている。

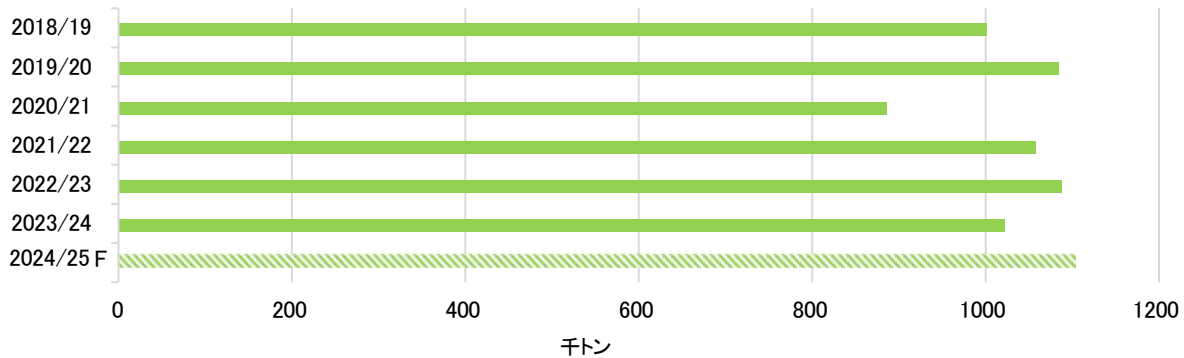
生鮮グレープフルーツの樹上換算平均生産者価格は43.16ドル/箱(10月～1月)で、前シーズンの同時期に比べて19%上昇した。価格の上昇は、供給の逼迫と国内での入手のしにくさによって支えられている。2024/25年度シーズンの最初の5カ月間の生鮮グレープフルーツの輸入は13%減少し、輸出は16%減少した。カナダと韓国への出荷は、それぞれ8%及び48%減少し、日本への輸出は9%増加した。

経済調査局の現在の推定によると、2024/25年度シーズンのグレープフルーツ果汁の製造量は、歴史的な低水準の1,060万SSEガロンと予測され、1人当たりの供給量は0.04ガロンと予想される。輸入量は800万ガロンと予測される。輸出量は増加傾向にあり、約500万ガロンと予測される。今シーズンの最初の5カ月の貿易データに基づくと、カナダ、韓国、英国への輸出はそれぞれ17%、95%及び71%増加した。

レモンの見通し: 2024/25年度のレモンの出荷量は110万トンと予測されている。カリフォルニア州は100万トン(2023/24年度に比べ6%増)、フロリダ州は2万7千トン(今年度が初めての予測)、アリゾナ州は3万6千トン(5%減)を占めている(図6)。生鮮レモンの樹上換算価格は平均30.61ドル(8月～1月)で、8%下落した。2024/25年度シーズンのレモン果汁の製造量は、2,450万SSEガロン(14%増)と予測されている。

生鮮レモンの輸入量は、今シーズンこれまで(2024年8月～2025年1月)に8%増加したが、国内生産量の増加により、輸入が少なかった昨年(4億2,300万ポンド)に近づくとも予想されている。レモン果汁の輸入も、昨年の同時期と比較して大幅(20%)に増加している。ただし、今後数カ月のレモン果汁の輸入量は、減少傾向になると予想されている。シーズン序盤はチリからの輸入がリードしたが、後半はアルゼンチン産が優勢になると予想されている。生鮮レモンの輸出量は、今シーズンこれまでで3%減少した。カナダ向けの出荷量は前年同期比で16%増加したが、日本と韓国への輸出量は減少した。レモン果汁の輸出は、今シーズン前半の堅調な輸出と国内の製造量の増加により、昨年の456万SSEガロンを超えると予想されている。米国における1人当たりのレモン果汁供給量は、昨年の0.20ガロンを超えると予想されている。

図6 レモンの出荷量：フロリダ州での増産により2024/25年度シーズンは増加の予測



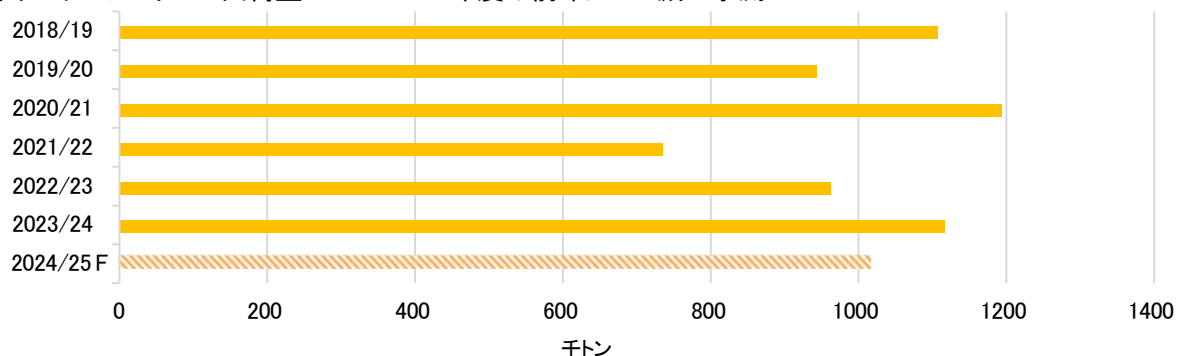
F=予測

出典：米国農務省農業統計局(NASS)の「作物生産報告書」(2025年3月)及び「柑橘類要覧」各号のデータに基づき同省経済調査局が作成

タンジェリンの見通し： 広義のタンジェリンには、タンジェリン、マンダリン、クレメンタイン等の様々な柑橘類(ミカン科ミカン属)が含まれる。これらの果実は通常、オレンジよりも小さく、皮をむきやすい。タンジェリンは歴史的に東アジア市場で重要であったが、この数十年は米国で人気が高まっている。

2024/25年度の生産量は102万トンと予測されており、カリフォルニア州が100万トン(2023/24年度に比べて9%の減)、フロリダ州が1万7千トン(同19%減)を占めている(図7)。米国のタンジェリンの総出荷量は今年9%減少すると予想されているが、それでも過去5年間の平均を上回っている。米国の生鮮市場向け出荷量は13億9千万ポンドで、1人当たりの生鮮タンジェリン供給量は7.24ポンドと予測されている。

図7 タンジェリンの出荷量：2024/25年度は前年比9%減の予測



F=予測

出典：米国農務省農業統計局(NASS)の「作物生産報告書」(2025年3月)及び「柑橘類要覧」各号のデータに基づき同省経済調査局が作成

予測出荷量が減少したため、今シーズンの最初の3カ月間の輸入は53%増加し、合計1億1,300万ポンドとなった。輸入は従来から、タンジェリンの供給量の大部分を占めてきた。2023/24年度シーズンに米国で流通したタンジェリンの約43%は、他の国からの輸入であった。米国のタンジェリン輸出量は、2024/25年度シーズンの最初の3カ月(2024年11月～2025年1月)に47%増加し、合計4,750万ポンドに達した。しかし、国内生産量の減少が予想されることから、この傾向が続くとは考えにくい。米国産タンジェリンの主な輸出先は、2024/25年度シーズンも引き続きメキシコ、カナダ、韓国であると予想されている。

非柑橘類の見通し

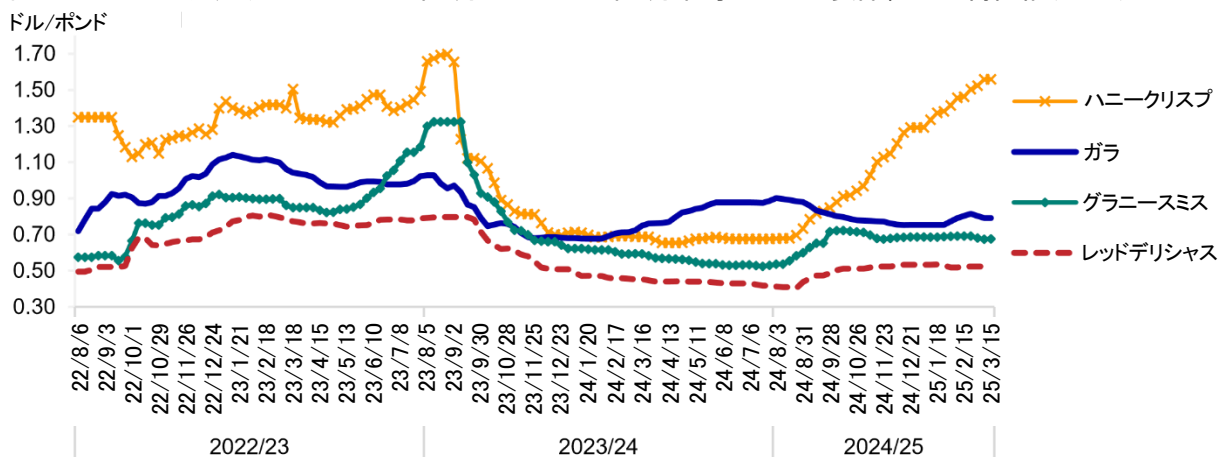
リンゴの生産者価格は4年ぶりの安値から回復

米国農務省農業統計局(NASS)が報告した生鮮リンゴの生産者価格は、前シーズンの4月に名目、実質ともに4年ぶりの安値に下落した後、2024/25年度の最初の6カ月にはゆっくりと上昇し始めた。2025年1月の生鮮リンゴの生産者価格は1ポンド当たり75セントで、前年同月より20%高いものの、2023年の同月よりは19%低くかった。米国のリンゴの総生産量は、天候等の要因により3シーズン連続で110億ポンドを下回った後、2023/24年度(8月～7月)には前年比14%増加した。

2024/25年度の生産量予測は2023/24年度よりわずかに低いものの、リンゴの収穫量は依然として平均を上回ると予測されている。全米リンゴ協会の報告によると、2024年2月1日現在の米国のリンゴ総貯蔵量(生鮮消費用及び加工用)は、前年よりは5%少ないが、2年前の同月より26%多くなっている。

2025年3月中旬には、ガラ、グラニースミス、レッドデリシャス等の人気品種の出荷価格(FOB)は前年同週より高かったものの、依然として2023年の同時期の平均を下回った(図9)。2023/24年度下半期のハニークリスピの価格は、貯蔵量が平均よりも多かったため下押し圧力がかかり、ガラの価格を下回った。ハニークリスピは2008年まで特許品種であり、従来は他の一般的なリンゴ品種と比較して価格プレミアムを獲得してきた。2024/25年度のハニークリスピの出荷価格は、前年比での生産量の減少を反映して回復した。

図9 ワシントン州産リンゴ：2022年8月から2025年3月中旬までの主要品種の出荷価格(FOB)



FOB＝出発地積載済み価格

注：米国産の慣行栽培リンゴ、40ポンド箱入り、入数64～88玉、上級品(エクストラファンシー級)

出典：米国農務省農業流通局「マーケットニュース」の出荷価格データに基づき経済調査局が作成

ガラとレッドデリシャスは2024/25年度もリンゴのトップ品種の座を維持：全米リンゴ協会によれば、ガラとレッドデリシャスの両品種を合わせると、今シーズンの米国のリンゴ生産量の約3分の1を占めると予想されている(図省略)。2023/24年度に記録的な収穫量であったハニークリスピは、グラニースミスに次ぐ4位に後退すると予想されている。コズミッククリスピ品種(ワシントン州でのみ栽培)は、引き続き結果面積が増加するため2024/25年度の実産量は記録を更新すると予測されている。コズミッククリスピの実産量は現在、ふじとゴールデンデリシャスに次ぐ7位にランクされている。

2024/25年度上半期(8月～1月)に、米国の生鮮リンゴ輸出は、前シーズンの同時期と比較して、輸出額で1%、輸出量で4%減少した。主要市場であるメキシコ、カナダ、台湾、インドへの生鮮リンゴの輸出の減少が、ベトナム向けの前年比14%の増加を上回った。2025年1月までに、有機リンゴは生鮮リンゴ輸出量の約5分の1(1億8,150万ポンド)を占め、重量ベースで有機リンゴの60%がメキシコに輸出された。米国では、生産された生鮮市場向けリンゴの約4分の1が輸出される。生鮮リンゴの輸入が国内市場に占める割合は相対的に小さく、2023/24年度には国内総供給量の2%であった。